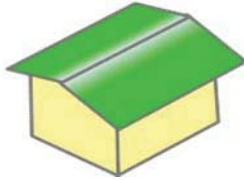


やね かくめいしょう
★屋根の各名称



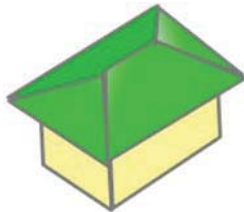
やねけいじょう
屋根形状

やねけいじょう
★屋根形状



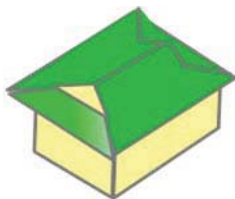
き つま
【切り妻】

むね ちょうてん りょうはし かほう てんかい やね
棟を頂点に両端の下方へと展開する屋根



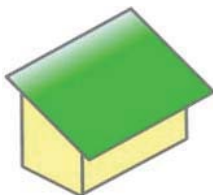
よせむね
【寄棟】

むね りょうはし すみ お むね お やね
棟の両端から4隅にそれぞれ降り棟が降りている屋根



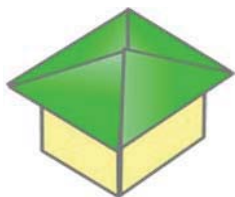
いりもや
【入母屋】

きりづま よせむね とくちょう あわ も やね
切妻と寄棟の特長を併せ持つ屋根



かたなが
【片流れ】

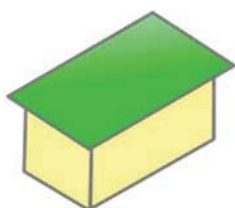
いっぽう けいしゃ やね
どちらか一方だけに傾斜している屋根



ほうぎょう
【方形】

よせむね いっしゅ せいほうけい まど よせむね さいよう
寄棟の一種で、正方形の間取りで寄棟を採用した

がた やね
ピラミッド型の屋根



りくやね (ろくやね)
【陸屋根】

やね こうばい な すいへい やね
屋根の勾配がほとんど無い水平な屋根

てつきん けんちく たよう
鉄筋コンクリート建築に多用される

けんちくようざいりょう しゅるい きかく せいしつおよ ようと 建築用材料の種類、規格、性質及び用途

しやおんへき ★遮音壁

しやおんへき ぼうおんへき そうおん はっせい しせつ しゅうへん とち
遮音壁または防音壁（英：Noise barrier）は、騒音を発生する施設から周辺の土地を
まも せっち かべ しやおん とく どうろ てつどう こうじょう そうおんげんじたい よくせい
守るために設置される壁です。遮音は特に道路、鉄道、工場など、騒音源自体を抑制
せいげん ばめん つか
・制限できない場面でよく使われます。

しつ しやおんへき しやおん ほか なまり は しよう
ピアノ室などの遮音壁には、遮音シートその他、鉛のフィルムを張ったものも使用されます。

のじいた あつ すぎ いた のじごうはん なまえ こうはん
野地板は厚さが12mmから15mmくらいの杉の板で、野地合板は名前のとおり合板です。
むかし やね のじいた おも いま ごうはん やす いっぱんてき こうぞうようごうはん
昔の屋根は野地板が主でしたが、今は合板のコストが安いので、一般的に構造用合板
もち おお
を用いることが多いです。

ごうはん うす いた せんいほうこう たが ちよっこう なんまい は あ いた
合板とは、薄い板の繊維方向を互いに直交させて何枚か張り合わせてつくった板のこと
しゅじゅ ようと ざいりょうおよ ほうほう かこう せいひん
です。種々な用途、材料及び方法により加工される製品です。

こうぞうようごうはん けんちくぶつ こうぞうたいりよくじょうしゅよう ぶぶん しよう ごうはん にほんのうりん
構造用合板は建築物の構造耐力上主要な部分に使用する合板です。日本農林
きかく つぎ きじゆん
規格【JAS】により、次のように基準がさだめられています。

- せっちやく ていど とくるい るい どうきゆう きゆう きゆう
●接着の程度：特類、1類 ●等級：1級、2級

けんちくごうはん せっちやく ていど ぶんるい 建築合板の接着の程度による分類

にほんのうりんきかく せっちやくせいのおべつぶんるい つぎ
日本農林規格(JAS)による接着性能別分類は次のとおりです。

とくるいごうはん 特類合板：

けんちくぶつ こうぞうようたいりよくぶざい じょうじしつじゆんじょうたい ばしょ つか ごうはん
建築物の構造用耐力部材で、常時湿潤状態の場所でも使える合板

こうぞうようごうはん などせんていようごうはん あしばいたようごうはんなど
構造用合板（Kプライ）・ヨット等舟艇用合板・足場板用合板等

るいごうはん 1類合板【タイプ1】：

おくがいはよ ちょうきかんしつじゆんじょうたい ばしょ つか ごうはん
屋外及び長期間湿潤状態の場所でも使える合板

かたわくようごうはん じゅうたくしたじょう けんちくぶつがいそうようごうはんなど
コンクリート型枠用合板・住宅下地用・建築物外装用合板等

るいごうはん 2類合板【タイプ2】：

しゅ おくない たしよう みず しつど たか ばしょ つか ごうはん おも ようと
主として屋内で、多少の水のかけりや湿度の高い場所でも使える合板。主な用途は、

てんじょうざい ないそうざい ないそう もっこうかぐなど きざい つか
天井材・内装材・内装ドア・木工家具等の基材として使われています。

せんぱく しゃりょうなど ないそうようごうはん かぎようごうはんなど
船舶・車両等の内装用合板・家具用合板等

にほんのうりんきかく

※日本農林規格

のうりんぶつし きかくかおよ ひんしつひょうじ てきせいか かん ほうりつ ほう こうふ もと
農林物資の規格化及び品質表示の適正化に関する法律【JAS法、1950年公布】に基づく、
のう りん すい ちくさんぶつ かこうひん ひんしつほしょう きかく えいごめいしょう
農・林・水・畜産物およびその加工品の品質保証の規格です。英語名称が Japanese

いっばん りやく きかく きかく よ
Agricultural Standard であるため、一般に JAS と略され、その規格を JAS規格と呼ぶことが
おお きかく てきごう しょくひん せいひん よ きかくしょうひょう
多いです。この規格に適合した食品などの製品には JAS マークと呼ばれる規格証票を
ふ しゅつか はんばい みと
付した出荷、販売が認められています。

こうしつせんいばん

★硬質繊維板

やくひん くわ もくざい しょうへん かねつ せんいじょう あっしゆくせいけい つく いた
薬品を加えた木材の小片を加熱、繊維状にし、圧縮成形して作る板のことで、ハ
ードボードともいいます。普通合板よりも湿気による伸縮が大きいです。強度の向上
ふつうごうはん しっけ しんしゆく おお きょうど こうじょう
を図ったもので、厚さは5～7ミリメートルが一般的であり、内壁下地、仕上げ材、外装用
はか あつ いっばんてき うちかべしたじ し あ ざい がいそうよう
のサイディングボードなどのほか、家具、弱電製品、自動車などの下地素材、成型材と
りょう おお
して利用も多いです。

ようと

★タイルの用途

じきしつ

・磁器質タイル：

せきえい ちょうせき しょうせい きんぞくおん
石英や長石などを 1200～1350℃で焼成したもので、たたくと金属音がします。

きゅうすいせい たいとうがいせい たいまもうせい すぐ
吸水性はほとんどありません。耐凍害性、耐磨耗性に優れています。

じきしつ げんかん どま は てきとう
磁器質タイルは玄関の土間に張るタイルとしては適当です。

とうきしつ

・陶器質タイル：

とうど せっかい げんりょう しょうせい すんぼうせいど
陶土や石灰などの原料を 1000～1200℃で焼成したもので、寸法精度がよく、たたく

だくおん きゅうすいせい
と濁音がします。やや吸水性があります。

きしつ

・せつ器質タイル：

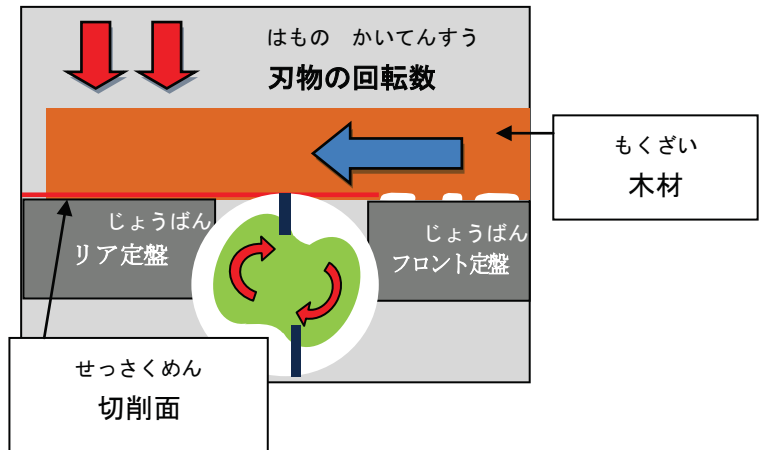
ねんど ちょうせき ぜんご しょうせい じきしつ くら きゅうすいせい
粘土や長石などを 1200℃前後で焼成したもので、磁器質に比べて、やや吸水性が
あります。

木造加工用機械・携帯電動工具の種類及び使用方法

★手押しかな盤

木材を表面削りして板厚を所定の水平にするとともに、直角二面加工をする工作機械です。

回転数が同じ場合、送り速度を遅くするほうが、切削面がきれいに仕上がります。



★手押しかな盤で、木材を加工する場合は、安全カバーをしなければならない。

- 安全カバーとは刃の部分が高速度回転で回っているため、指が刃に触れないようにカバーを取り付けます。
- 服装も、上着の袖口は必ず締めおきます。手袋も滑る要因になります。首にタオル、マフラー等も巻き込まれるため禁止です。
- 加工材を前テーブルと案内定規にしっかり安定させること。



安全カバーなし
×

案内定規は
直角に合わせる



安全カバー〔赤色 Red〕
【cover safety】
○

加工材が跳ねる場合があるので、手の置き位置に注意する。
※材の大・小があるので、安全のために押し板を使用する事を推奨する



あんぜん おいた もち かこう
安全のため押し板を用いて加工

おいた
押し板

しょうこうばん しょうこうまる ばん けいしゃまる ばん けいしゃばん
★昇降盤（昇降丸のこ盤、テーブル傾斜丸のこ盤、傾斜盤）



きのう
＜機能＞

しょうこうおよ けいしゃ そうち まる
テーブルを昇降及び傾斜させる装置と丸
かいてん
のこを回転させることにより、工作物を
こうさくぶつ
しゅどう おく せつたん みぞつ かこう
手動で送り、「切断・溝付き」などを加工す
もっこう ばん
る木工のこ盤です。

いっばんてき しょうこうばん よ
一般的には昇降盤と呼ばれています。

もくざい ひ わ かこう はもの こうかん
木材の引き割り加工と、刃物を交換し、
みぞつ かこう しょう
溝付き加工に使用します。

ておし ばん
★手押かな盤



あんぜん
安全カバー

きのう
＜機能＞

かいてん どう しょうこう いっつい
回転するかな胴と昇降できる一対のテ
もくざい しゅどうおく もくざい
ーブルからなり、木材を手動送りし、木材の
たい きじゅんめん つく ばん
平らな基準面を作るかな盤です。

ておし ばん もくざい ひょうめんけず いたあつ
手押かな盤は木材を表面削りして板厚
しょうてい すんぼう ちよっかくにめん
を所定の寸法にするとともに、直角二面
かこう こうさくきかい
加工をする工作機械です。

じどう ばん
★自動かな盤



きのう
＜機能＞

かいてん よこ どう しょうこう およ
回 転する横かな盤、昇 降できるテーブル及び
おく そうち こうさくぶつ きじゆめん
送り装置からなり、工作物の基準面をテーブルに
あ じどうおく めん せつさく あつ
当てて自動送りし、1面ごとに切削し厚さを
き そろ
決め揃えることができます。

しょうこう じょうぶ と つ
昇 降するテーブルとその上部に取り付けられた
どう あいだ こうさくぶつ とお ざいりょう
かな盤の間に工作物を通すことにより材 料
ひょうめん きれい か あつ ぎ
の表面が綺麗にプレーナー掛けされ、厚さ決めも
かんたん でき
簡単に出来ます。

でんきまる
★電気丸のこ



きのう
＜機能＞

かいてん もくざい せつだん せつだんかくど ど あ でき
回 転をしながら木 材を切 断します。切 断角度が0度～90度まで合わせる事が出来ます。
ちやくせん き さい しょう きょくせん き は か もくざい
直 線に切る際に使用し、曲 線は切れません。歯を換えることで木 材のほかいりいろな
ざいりょう き は おお まる おお か だい ちゆう しょう
材 料が切れます。歯の大きさにより丸のこの大きさが変わり、大・中・小 とサイズも
こと もくざい よこせつだん たてび せつだん けんよう でき でんどうき
異なります。木 材の横切 断と縦引き切 断も兼用で出来る電動機です。

せつだんさぎょう、 いちばんきほん どうぐ て ひかく はや き まる
切 断作業で、一 番基本になる道具です。手のことは比較もできないほど早く切れます。丸の
ざいりょう うえ お あ まっす お もくざい せつだん
こを材 料の上に押し当て真直ぐに押しながら木 材を切 断します。

かんけい
★ドリル関係

でんき
電気ドリル・インパクトドライバ・インパクトレンチ



でんき
電気インパクトレンチ



- ・ドリルドライバはクラッチが内蔵されており、指定トルクに達すると空回りするようになっています。
- ・インパクトドライバは回転方向へ打撃を加えることでビスを強力に締め付けることができます。

じゅうでんしき
★充電式インパクトドライバ



ロックリング

きのう
<機能>

ロックリングを手で押しビットを挿入後、リングから手を離すとバネの力で元の位置に戻り、ビットはロックされます。

ドリルドライバとは異なり、クラッチ機構や2段階式回転数切替スイッチはありません。

電気配線が無いため、移動作業には大変便利です。ビットを交換することにより電気ドリルの役割もします。

★エアインパクトレンチ・電気インパクトレンチ



エアインパクトレンチ

きのう
＜機能＞

エアインパクトレンチはエアコンプレッサーで圧縮された空気によって、エアモーターの回転力を打撃部（衝撃部）に伝え、各種ボルト・ナットに衝撃を与えながら回転させる工具で、締め緩めが強力かつ手早くできます。電気インパクトレンチは、電気動力でボルト等を締め付けます。

★エアコンプレッサー



きのう
＜機能＞

空気の力を利用して、電動工具顔負けのパワーを発揮するエアツールです。

コンプレッサーはそのパワーを発生させる機械です。モーターの回転を圧縮機本体のピストンによる上下運動に変えます。ピストンの上下運動で空気を圧縮し、下のタンク内に空気をため、このタンク内の空気の排出を利用して、いろいろなエアツールを使用します。

★エアコンプレッサー釘打ち機・保護めがね



圧縮された空気を一気に排出し、その圧力で釘を打ちます。

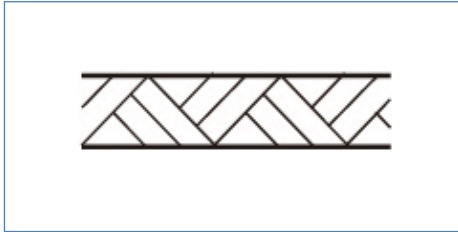
使用するときには、必ず保護めがねをかけます。

保護めがねは、目の中に切りカス、ゴミが入らないように防護する物です。

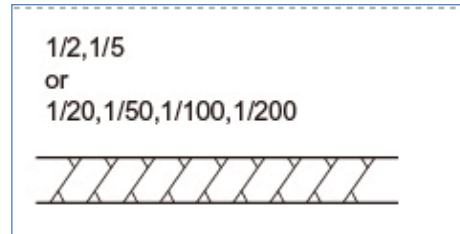


にほんこうぎょうきかく 日本工業規格

にほんこうぎょうきかく ざいりょうこうぞうひょうじきごう ★日本工業規格（JIS）による材料構造表示記号



じばんこうぞうひょうじきごう
地盤構造表示記号



わりぐりこうぞうひょうじきごう
割栗構造表示記号

にほんこうぎょうきかく 日本工業規格 (Japanese Industrial Standards)

こうぎょうひょうじゆんか もと にほんこうぎょうひょうじゆんちようさかい とうしん う しゅむだいじん せいてい
工業標準化に基づき、日本工業標準調査会の答申を受けて、主務大臣が制定
する工業標準であり、日本の国家標準の一つです。JIS または JIS規格と通称され
ています。

あんぜんえいせい かん いっぱんてき ちしき 安全衛生に関する一般的な知識

ろうどうあんぜんえいせいほう ★労働安全衛生法

ろうどうさいがいぼうし きがいぼうしきじゆん かくりつ せきにんたいせい めいかくかおよ じしゆてきかつどう
労働災害防止のための危害防止基準の確立、責任体制の明確化及び自主的活動の
そくしん そち こう など ぼうし かん そうごうてきけいかくてき たいさく すいしん
促進の措置を講ずる等、その防止に関する総合的計画的な対策を推進することにより
しょくば ろうどうしゃ あんぜん けんこう かくほ かいてき しょくばかんきょう けいせい
職場における労働者の安全と健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成と
そくしん もくてき ほうりつ かくじぎょうかつどう ひつよう しかく ゆう ぎょうむ
促進を目的とする法律です。そのため、各事業活動において必要な資格を有する業務
めんきょ ぎのうこうしゅう とくべつきょういく かたち しゆとく ぎむづ
を免許や技能講習、特別教育といった形で取得することを義務付けています。

ろうどうあんぜんえいせいほうれい たか ぶつたい とうか ばあい した ひと
★労働安全衛生法令によれば、3mの高さから物体を投下する場合は、下に人がいれば
とうか
投下できません。

ろうどうあんぜんえいせいほうれい あしば く た など ほうほう さぎょうゆか もう
★労働安全衛生法令によれば、足場の組み立て等の方法により作業床を設けなければ
さぎょうかしよ たか いじょう
ならない作業箇所は高さ2m以上です。

あしば

★足場

あしば たか いじょう さぎょうばしょ つぎ さだ さぎょうゆか もう
足場における高さ2m以上の作業場所には、次に定めるところにより作業床を設けます。

- はば いじょう ゆかざいかん ま いか
幅は40cm以上とし、床材間のすき間は3cm以下とします。
- ついらく きけん かしよ たか いじょう て もう
墜落の危険のある箇所には、高さ85cm以上の手すりを設けます。
- こうかんあしば つぎ てきごう しよう
鋼管足場については次に適合したものでなければ使用してはいけません。
- あしば きやくぶ かつどう ちんか ぼうし かなぐ もち しきいた しきかく
足場の脚部には、滑動または沈下を防止するため、ベース金具を用い、かつ敷板、敷角
もち ね もう そち こう
などを用い、根がらみを設けるなどの措置を講じなければなりません。
- かべ ひか もう ばあい かんかく たんかんあしば ばあい すいちよくほうこう いか
壁つなぎまたは控えを設ける場合の間隔は、単管足場の場合は垂直方向で5m以下、
すいへいほうこう いか ぐみあしば たか みまん ばあい のぞ ばあい すいちよくほうこう
水平方向で5.5m以下、わく組足場(高さ5m未満の場合を除く)の場合は垂直方向
いか すいへいほうこう いか
で9m以下、水平方向で8m以下とします。

さぎょうゆか

★作業床

- たか いじょう かしよ さぎょう おこな ばあい ついらく きけん ばあい さぎょうゆか
高さが2m以上の箇所で作業を行う場合で墜落の危険がある場合は、作業床を
もう
設けます。
- さぎょうゆか はし かいこうぶ ついらく きけん かしよ かこ て おお もう
作業床の端、開口部など墜落の危険がある箇所には囲い、手すりや覆いなどを設けます。
- さぎょうゆか もう こんなん ぼうもう は ろうどうしゃ あんぜんたい しよう
作業床を設けることが困難なときは、防網を張り、労働者に安全帯を使用させます。
- きょうふう おおあめ おおゆき あくてんこう とき しごと じゅうじ
強風、大雨、大雪などの悪天候の時は、仕事に従事させてはいけません。
- ろうどうしゃ こうしよさぎょう いのちづな しよう めい とき しよう
労働者は高所作業で、命綱の使用を命じられた時はこれを使用します。
- たか いじょう かしよ さぎょう おこな あんぜん ひつよう しょうど ほじ
高さが2m以上の箇所で作業を行うときは、安全のために必要な照度を保持します。

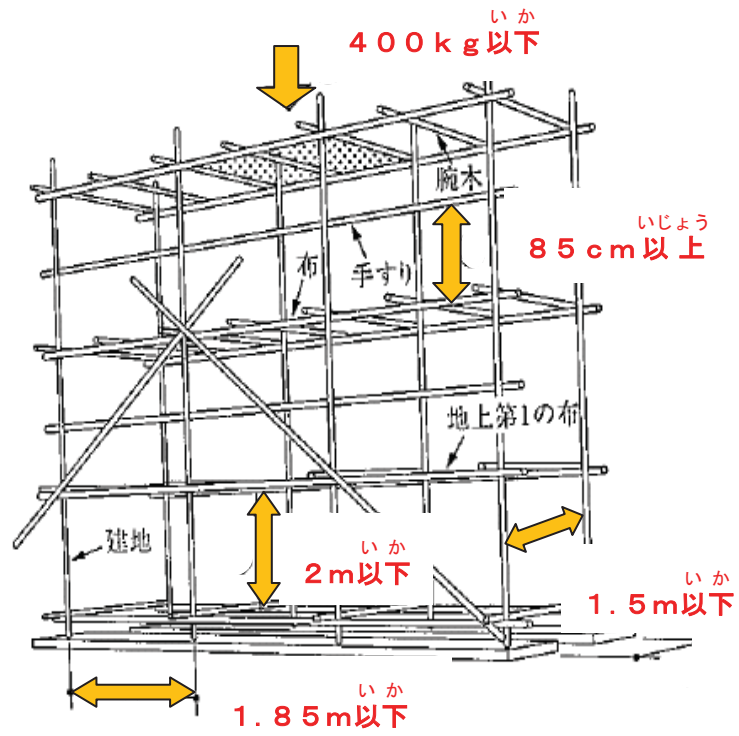
たんかんあしば

★単管足場

たんかんあしば つぎ てきごう しよう こうかんあしばてきごう
単管足場については、次に適合したものでなければ使用してはいけません。(鋼管足場適合
きじゆん じゆんきよ
基準も準拠します。)

- たてば かんかく ほうこう いか ほうこう いか
建場の間隔は、けた方向を1.85m以下、はり方向を1.5m以下とします。
- ちじょうだい ぬの いか いち もう
地上第1の布は、2m以下の位置を設けます。
- たてじ さいこうぶ はか ぶぶん たてじ こうかん ほんぐみ
建地の最高部から測って31mをこえる部分の建地は、鋼管を2本組とします。
- たてじかん せきさいかじゆう げんど
建地間の積載荷重は、400kgを限度とします。

たんかんあしば
単管足場



わくぐみあしば
枠組足場

